

Title	新型コロナウイルス感染症対応が研究生産性に与える影響等に関する調査(JGRAD ウェブアンケート)
Author(s)	齋藤, 経史; 星野, 利彦; 浜岡, 一弘
Citation	年次学術大会講演要旨集, 36: 340-343
Issue Date	2021-10-30
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/17874
Rights	本著作物は研究・イノベーション学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Research Policy and Innovation Management.
Description	一般講演要旨

2 A 2 2

新型コロナウイルス感染症対応が研究生産性に与える影響等に関する調査 (JGRAD ウェブアンケート)

○齋藤経史（科学技術・学術政策研究所）、星野利彦（科学技術・学術政策研究所）、
浜岡一弘（山梨大学：科学技術・学術政策研究所 RA）ksaito@nistep.go.jp

1. 調査概要

博士人材の活躍状況を把握するため、科学技術・学術政策研究所では博士人材データベース（JGRAD：<https://jgrad.nistep.go.jp/>）を構築・運営している。本稿は JGRAD の登録者に 2021 年 5 月から 6 月にかけて実施したウェブアンケート調査「新型コロナウイルス感染症対応が研究生産性に与える影響等に関する調査」の結果をとりまとめたものである。

（1）調査対象

2021 年 5 月 25 日時点で JGRAD に登録している博士課程在籍者および博士課程修了者・退学者のうちメールアドレスが記入されている全員に調査を行った。なお、本稿においては、博士課程修了者と退学者を合わせて博士課程修了者等と表記する。また、2014 年より整備を進めている JGRAD は 2021 年 5 月において、50 大学（国立大学 36、公立大学 8、私立大学 6）が参加していた。

（2）調査方法

調査依頼（日本語と英語）を電子メールで調査対象者全員に送付し、博士人材データベース上のウェブアンケート（日本語または英語）に回答を求めた。

（3）調査期間

2021 年 5 月 25 日～2021 年 6 月 14 日

（4）依頼数、回答者数

調査依頼メール送信の対象者数：24,534 人

配信エラーのシステムメールの返信人数：2,888 人

依頼メールの受信可能性がある人数：21,646 人

調査期間中の JGRAD へのログイン者数：6,002 人

回答者数：5,091 人（博士課程在籍者 3,106 人、博士課程修了者等 1,985 人）

調査依頼した登録者に占める回答者数：20.8%

依頼メールの受信可能性がある登録者に占める回答者数：23.5%

調査期間中のログイン者数に占める回答者数：84.8%

（5）アンケート調査内容

- [1] 新型コロナウイルス感染症対応の研究生産性への影響（全般・9 要素）
- [2] 研究環境において利用している取り組み・仕組み
- [3] 新型コロナウイルス感染症対応の有無による研究従事時間と研究生産性
- [4] 新型コロナウイルス感染症対応による博士号の取得時期が遅れる可能性
- [5] 新型コロナウイルス感染症対応の有無による通勤・通学頻度
- [6] 新型コロナウイルス感染症対応の有無による大学内外の収入変化
- [7] 特別研究員の該当有無と公的研究資金に関する利用制度
- [8] 回答者の属性と所属組織・政府に期待する取り組み

※専攻分野は学校基本調査を参考に、各回答者が在籍した博士課程の研究科を「人文（科学）」「社会（科学）」「理学」「工学」「農学」「保健」「その他」に区分した。

2. 調査結果概要

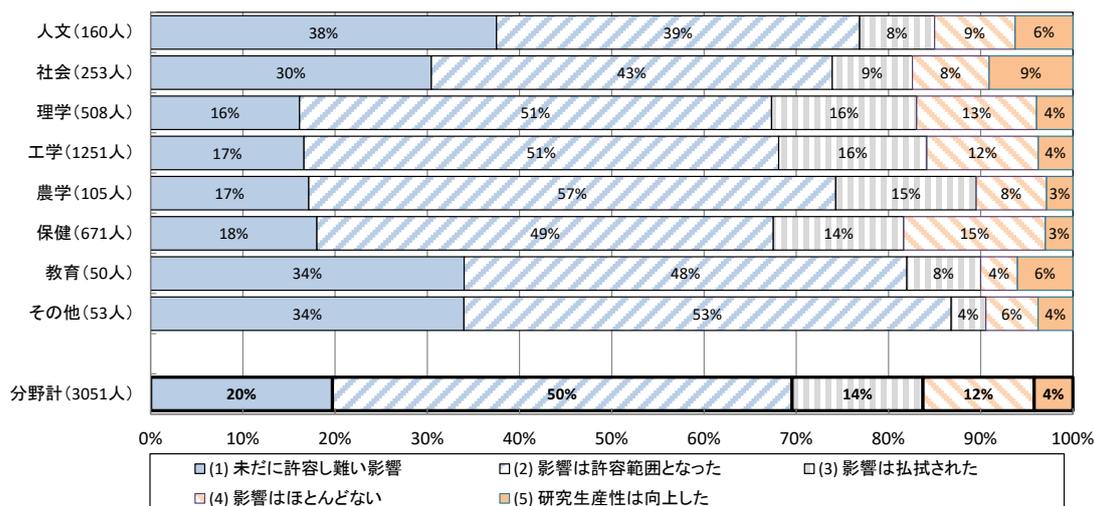
新型コロナウイルス感染症対応の研究生産性への影響(全般・9要素)[問1]～[問10]

全般的な研究生産性への影響を尋ねた[問1]の回答割合は「回答(2) 一時的に影響はあったが、回答時点までに研究生産性の影響は許容範囲となった」が最も多く、博士課程在籍者、博士課程修了者等のそれぞれで50%であった。

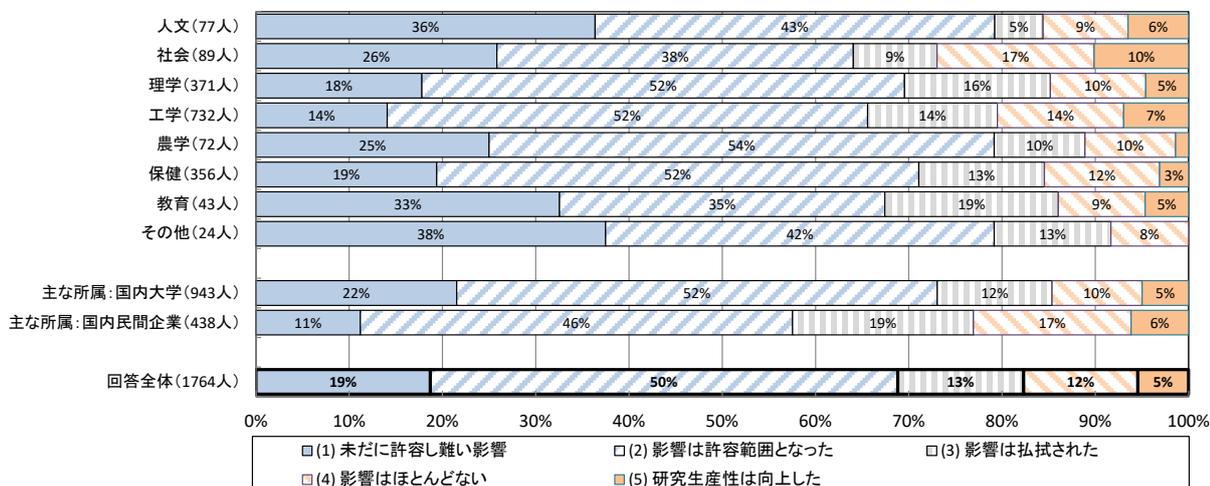
[問1]新型コロナウイルスが日本国内で初めて確認された2020年1月から本調査の回答時点に至るまで、新型コロナウイルス感染症の流行および対応が総じてあなたの研究生産性にどのような影響を及ぼしましたか。以下の選択肢から1つ選択してください。(博士人材全員向け: 択一式)

- 回答(1) 未だ研究生産性に許容し難い影響がある
- 回答(2) 一時的に影響はあったが、回答時点までに研究生産性の影響は許容範囲となった
- 回答(3) 一時的に影響はあったが、回答時点までに研究生産性への影響は払拭された
- 回答(4) 2020年1月以降、総じて研究生産性への影響はほとんどない
- 回答(5) 通学・通勤時間の削減やオンライン化等によって、研究生産性は向上した
- 回答(6) 2020年1月以前から研究・開発を行っていない(この問は自分に無関係)

図表1 専攻分野別: 回答(6)を除く[問1]の回答割合(博士課程在籍者)



図表2 専攻分野別: 回答(6)を除く[問1]の回答割合(博士課程修了者等)



[問 2]～[問 10]において「回答(1) 未だ有効な代替手段や制限緩和がなく、研究生産性に許容し難い影響がある」と回答した割合は、博士課程在籍者と博士課程修了者等で共通して、[問 9]一部の国、地域への渡航、[問 10]一部の国、地域からの招へい、先方からの来訪、[問 7]屋外調査・実験、フィールドワークの実施の順に多かった。

[問2～問10:専攻分野計 横断結果表示]

2020年1月以降の新型コロナウイルス感染症の流行および対応は本調査の回答時点まで、[問2]～[問10]の各要素はあなたの研究生産性にどのような影響がありましたか。〈博士人材全員向け:択一式〉

[問2]学会、シンポジウム、ワークショップ等(総勢10名以上が参加)の実施または参加

[問3]研究に関するミーティング、討議(総勢9名以下)の実施または参加

[問4]学内の講義、ゼミ、ティーチングセッションの実施または受講

[問5]研究活動に利用する建物・研究室、設備(実験機器)等の利用

[問6]図書館の利用、論文・研究資料の閲覧

[問7]屋外調査・実験、フィールドワークの実施

[問8]試薬・実験動物・機材等の調達

[問9]一部の国、地域への渡航

[問10]一部の国、地域からの招へい、先方からの来訪

回答(1) 未だ有効な代替手段や制限緩和がなく、研究生産性に許容し難い影響がある

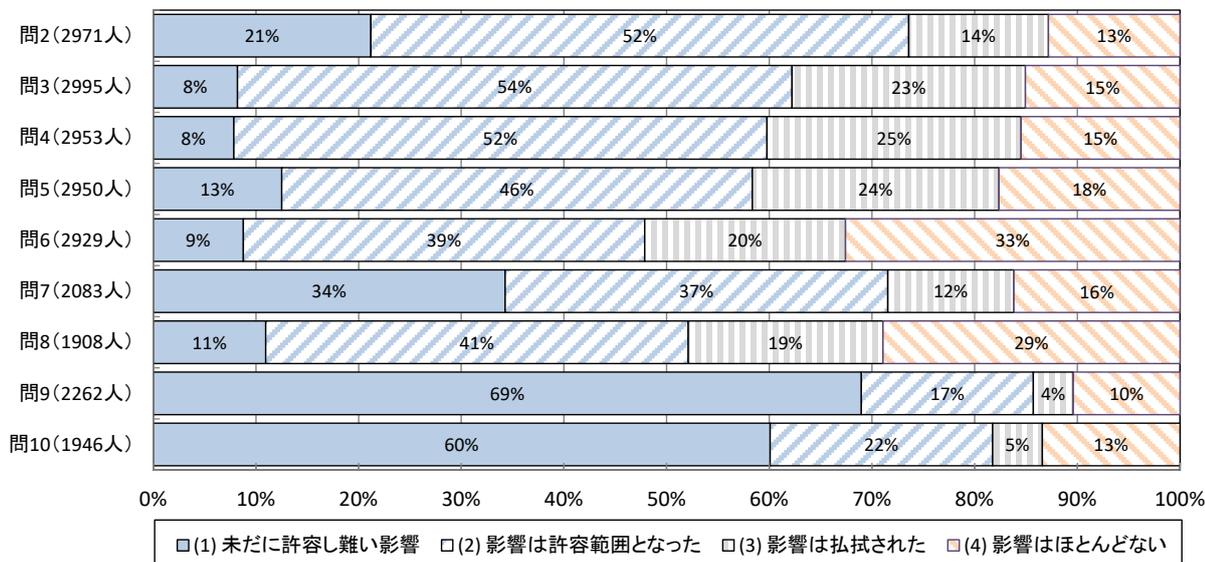
回答(2) 一時的に影響はあったが、研究生産性への影響は許容範囲となった

回答(3) 一時的に影響はあったが、研究生産性への影響は払拭された

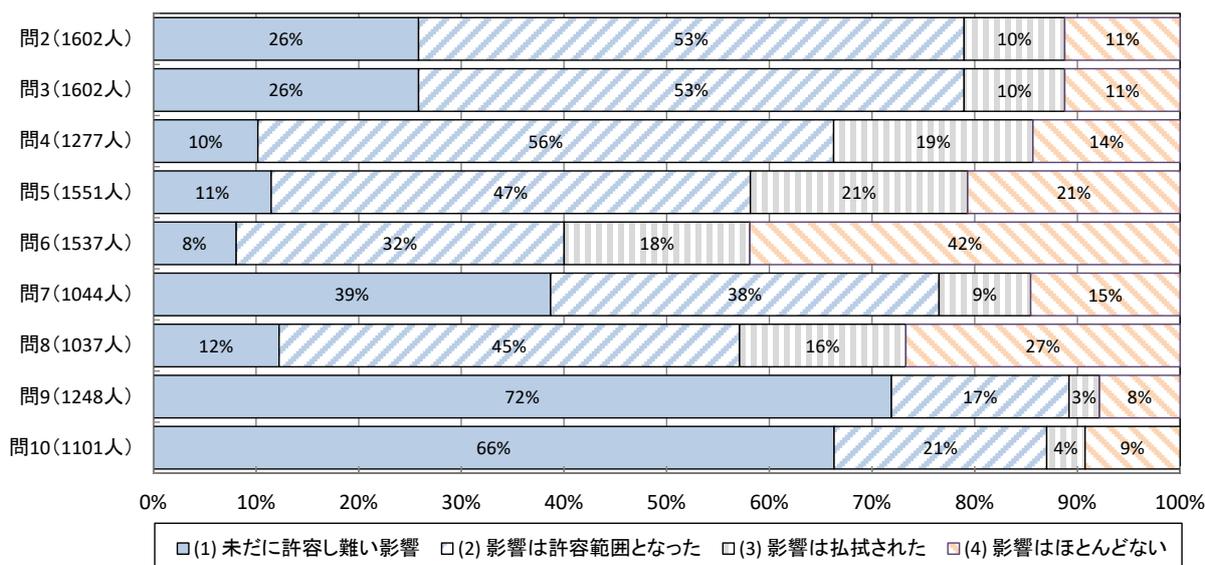
回答(4) 2020年1月以降、当該要素からの研究生産性への影響はほとんどない

回答(5) (1)～(4)に当てはまらない(研究・開発を行っていない、自分の研究には当該要素がない)

図表 3 回答(5)を除く[問 2]～[問 10]の回答割合(博士課程在籍者)



図表4 回答(5)を除く[問2]～[問10]の回答割合(博士課程修了者等)



新型コロナウイルス感染症対応の有無による研究生産性[問15]

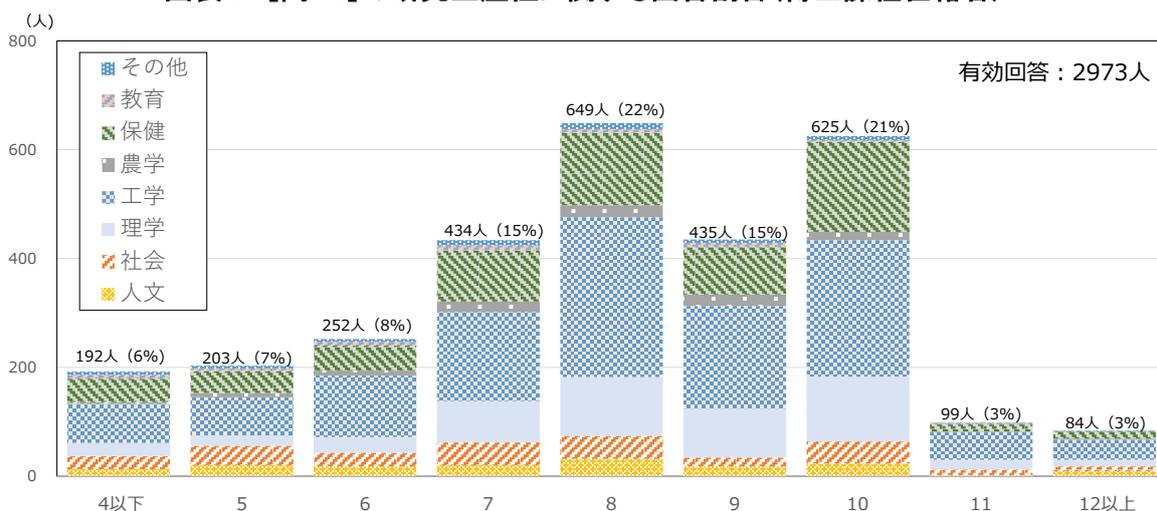
[問15]の感染症対応の有無による相対的な研究生産性に関する回答割合として、博士課程在籍者では「回答(5) 8」が最も高かった。感染症対応によって研究生産性が「9」以下に低下した割合は、博士課程在籍者で73%を占めた。

[問15]新型コロナウイルス感染症の流行がなかった場合におけるあなたの研究生産性を10とすると、現在の研究生産性を整数で表すなら、いくつになると考えられますか？(研究に従事する博士人材向け:択一式)

回答(1) 4以下 回答(2) 5 回答(3) 6 回答(4) 7 回答(5) 8
 回答(6) 9 回答(7) 10 回答(8) 11 回答(9) 12以上

回答(10) (1)～(9)に当てはまらない。(新型コロナウイルス感染症以外の要因によって比較が困難/この問は自分に無関係)

図表5 [問15]の研究生産性に関する回答割合(博士課程在籍者)



公表資料

齋藤経史, 浜岡一弘, 星野利彦「新型コロナウイルス感染症対応が研究生産性に与える影響等に関する調査 - 博士人材データベース (JGRAD) におけるウェブアンケート調査 -」, NISTEP RESEARCH MATERIAL, No313, 文部科学省 科学技術・学術政策研究所.

DOI: <https://doi.org/10.15108/rm313>